

若狭牛の放牧について

— 獣害対策や遊休農地等の活用のため若狭牛の放牧を行っています —

- 労働力不足で遊休農地などの草刈りが大変ではありませんか？
- イノシシやシカなどの獣害被害で困っていませんか？
- 耕作放棄地や荒廃林の保全・活用に困っていませんか？
- 牛を飼いませんか？小さな牧場やりませんか？

■近年、遊休農地などを利用した牛の放牧が全国各地で取り組まれています。本県においても、若狭牛の放牧が行われています。当初、イノシシなどの獣害対策として実施してきましたが、今後は、**農地や山林の保全管理、地域振興**のための活用を推進していきます。

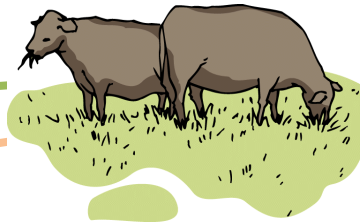
県内の取り組み状況

年 度	H16	H21	H26	H27	H28	H29
実 施 箇 所	1	15	16	18	16	16
面 積 (ha)	1.0	17.8	16.7	18.3	19.0	19.0
放牧頭数 (頭)	2	22	44	47	51	53

牛の放牧による「よろずの効果」

畜産農家のメリット

- 飼養管理の省力化：糞出しやエサやりなどの手間が省けます。（労働時間 約40%削減）
- 飼料費の低減：放牧期間中の飼料費は必要ありません。（飼料費 約20%削減）
- 繁殖成績の向上：適度な運動やストレスの軽減により、健康で強健な身体がつくられ、繁殖性（受胎率の向上、分娩間隔の短縮）がよくなります。
- 飼養規模の拡大：放牧により空いたスペース分の増頭が可能です。
- 就農機会の確保：新規就農や帰農者が比較的容易に取り組めます。



地域・耕種農家のメリット

- 農地や山林の草刈りの省力化：人の代わりに牛が草刈りをするので、草刈り作業が軽減されます。
- 鳥獣被害対策：緩衝地帯※の形成による鳥獣の活動抑制・けん制効果があります。
- 美しい景観の形成：荒れ地・荒廃山林がなくなります。牛のいる心和む風景が創出されます。
- 地域の活性化：子どもの情操教育に役立ちます。
憩いの場を提供し、生き甲斐・癒しの効果があります。
牛の放牧が地域の共通の話題となります。

※緩衝地帯（バッファゾーン）：人と野生動物との住み分けの境界線となり、野生動物が里地に侵入しにくくなる。